

**坂出市高齢者福祉計画および
第7期介護保険事業計画等策定に係る
事業者・法人アンケート調査
結果報告書**

**平成29年9月
坂出市 かいご課**

目次

I 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査設計	1
3 報告書の見方	1
II 調査結果（事業者）	2
1 事業者の属性	2
2 市内で運営している事業の利用状況について	4
(1) サービスごとの利用状況	4
(2) 介護医療院の創設について	7
3 今後の介護サービスへの取り組み意向について	8
(1) 介護サービスの取り組み意向	8
4 事業運営状況や問題点、課題等について	9
(1) 事業の運営状況について	9
(2) 事業所における人材確保と取り組みについて	10
(3) 地域共生社会に関する取組について	13
(4) 地域交流について	15
5 医療連携について	17
(1) 医療ニーズへの対応として重要なこと	17
6 認知症について	18
(1) 認知症の方へのサービスの工夫	18
(2) 認知症のかたを支援する上での課題	21
(3) 認知症ケアに関する研修について	23
(4) 認知症のかたに対する今後の取り組みについて	26

I 調査概要

1 調査目的

この調査は、坂出市第7期介護保険事業計画策定にあたって、施策の現状、課題等を把握し、計画策定の基礎資料とするため、実施しました。

2 調査設計

- (1) 調査対象 坂出市内の介護・高齢者福祉活動の業務に携わる事業者
- (2) 実施期間 平成29年7月18日～8月18日
- (3) 調査方法 郵送による配布・回収
- (4) 配布・回収状況

区分	配布数	有効回収数	有効回答率
事業者	41	39	95.1%

3 報告書の見方

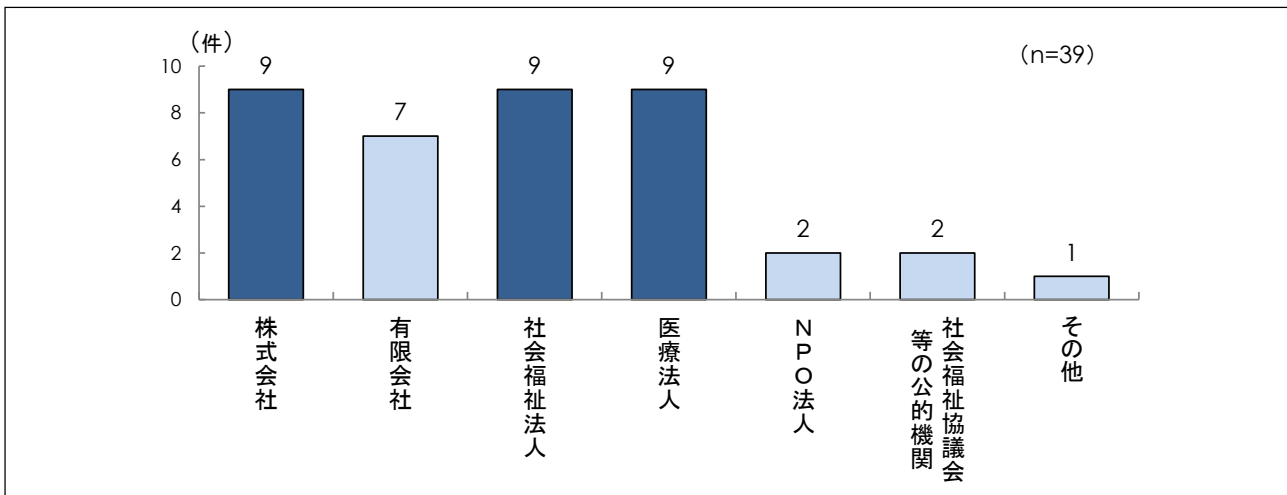
- (1) 回答のあった全体数は、(n=〇〇)と表示し、各数値は回答のあった件数、または人数を示しています。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は調査数を上回ることがあります。記述問題に関しても、1つの問に対し複数の意見を回答している場合があります。
- (3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。

II 調査結果（事業者）

1 事業者の属性

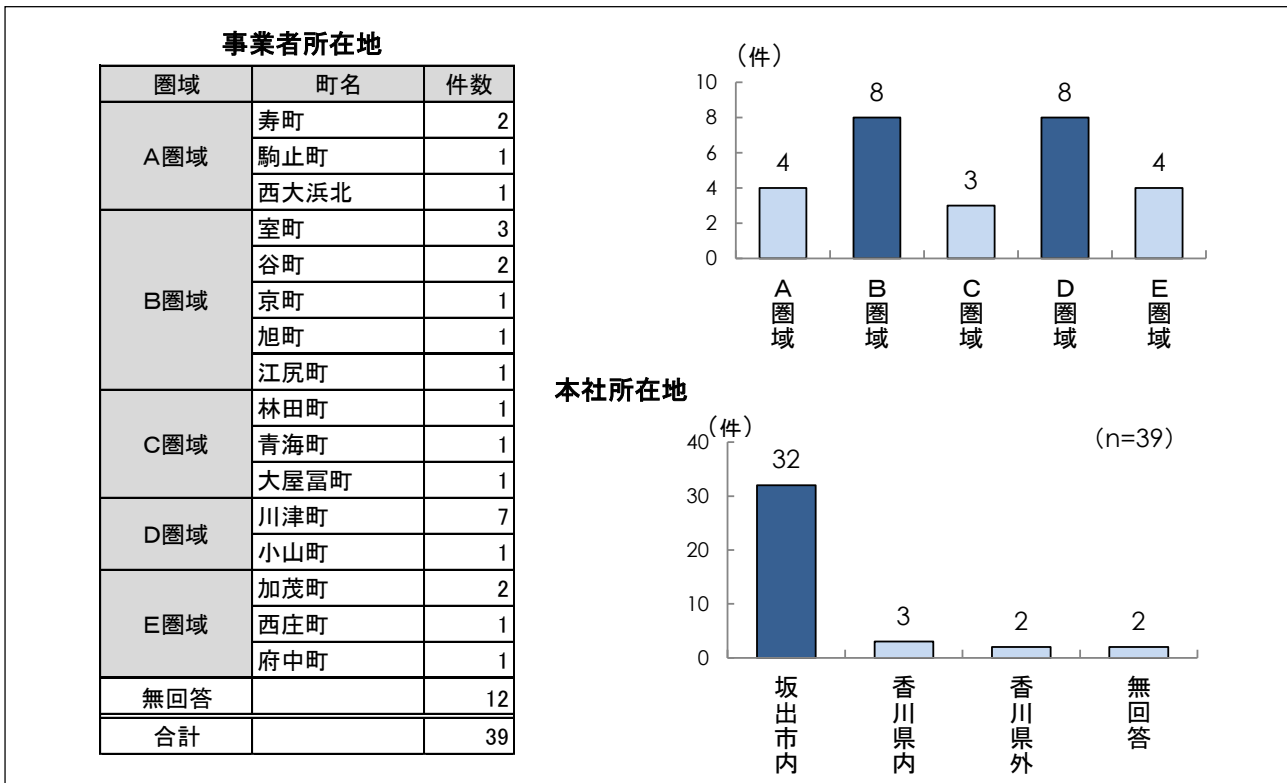
1 事業者の形態

事業者の形態をたずねたところ、「株式会社」、「社会福祉法人」、「医療法人」がそれぞれ 9 件、「有限会社」が 7 件、「NPO 法人」、「社会福祉協議会等の公的機関」がそれぞれ 2 件となっています。



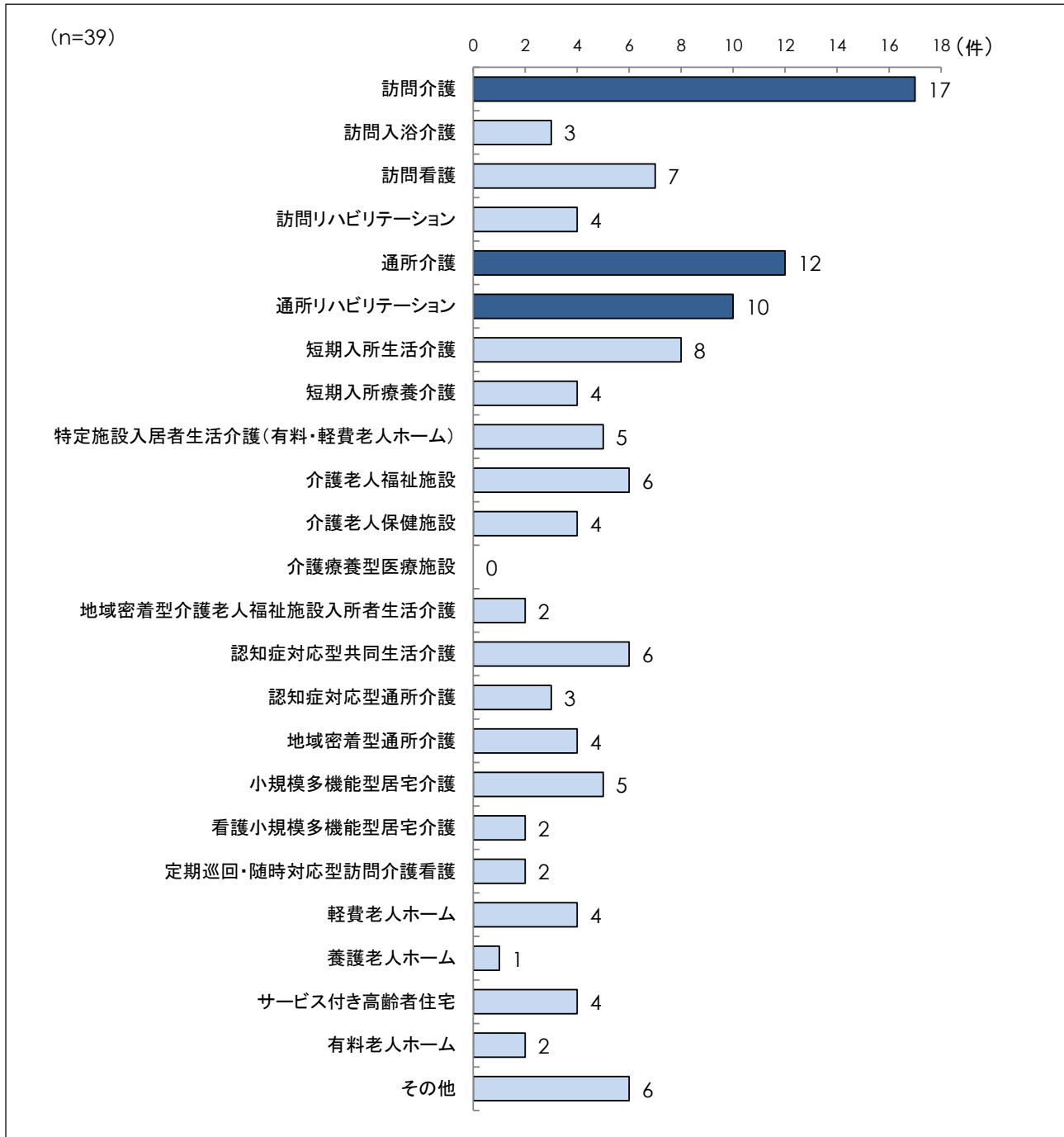
2 所在地

事業者の所在地をたずねたところ、本社所在地は「坂出市内」が 32 件となっており、大半の事業者の本社が坂出市内となっています。



3 事業サービスの種類（※複数回答可/市外含む）

事業サービスの種類をみると、「訪問介護」が17件と最も多く、次いで「通所介護」12件、「通所リハビリテーション」が10件、「短期入所生活介護」が8件、「訪問看護」が7件などとなっています。



2 市内で運営している事業の利用状況について

(1) サービスごとの利用状況

問1. 施設サービス及び地域密着型サービスごとに、平成29年6月1日時点のそれぞれの利用状況等を教えてください。

介護サービスの利用状況についてたずねたところ、下記のような回答が得られました。

図表1 介護サービスの利用状況について

・ 特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム）（※軽費老人ホームの回答事業者は0） 単位：（人）

事業所	定員数	1日あたりの利用者		
		坂出市被保険者	坂出市外被保険者	合計
介護付有料老人ホーム フラワーガーデン京町	100	73	17	90
やすらぎホームさぬきのくに	51	24	27	51
NP介護付有料老人ホーム 楽陽	30	12	10	22
合計	181	109	54	163

・ 介護老人福祉施設 単位：（人）

事業所	定員数	1日あたりの利用者		
		坂出市被保険者	坂出市外被保険者	合計
特別養護老人ホーム きやま	50	29	20	49
特別養護老人ホーム 松ヶ浦荘	50	43	7	50
特別養護老人ホーム 愛生苑	50	45	5	50
特別養護老人ホーム 聖マルチンの園	50	37	13	50
特別養護老人ホーム グランドガーデン	50	36	11	47
合計	250	190	56	246

・ 介護老人保健施設 単位：（人）

事業所	定員数	1日あたりの利用者		
		坂出市被保険者	坂出市外被保険者	合計
介護老人保健施設 城山苑	80	46	29	75
介護老人保健施設 松寿会	80	74	6	80
介護老人保健施設 五色台	100	62	38	100
介護老人保健施設 小山荘	80	57	21	78
合計	340	239	94	333

・地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

単位：（人）

事業所	定員数	1日あたりの利用者		
		坂出市被保険者	坂出市外被保険者	合計
地域密着型特別養護老人ホーム かわつ	29	29	0	29
特別養護老人ホーム フラワーガーデンひまわり	29	9	0	9
合計	58	38	0	38

・認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

単位：（人）

事業所	定員数	1日あたりの利用者		
		坂出市被保険者	坂出市外被保険者	合計
グループホーム やすらぎの家きやま	18	18	0	18
グループホーム 緑の里	18	13	0	13
グループホーム パンジー	18	18	0	18
グループホーム みかんの花	18	18	0	18
グループホーム たまもよし	9	9	0	9
ホーム すみれ	9	9	0	9
グループホーム メイプル	17	17	0	17
合計	107	102	0	102

・（看護）小規模多機能型居宅介護（坂出市被保険者）（※坂出市外被保険者の回答事業者は0）単位：（人）

事業所	登録者数	介護度別利用者数						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
緑の家	19	4	1	4	3	3	3	1
川津の家	19	4	2	4	3	2	4	0
小規模多機能型居宅介護 事業所 オリーブの花	15	1	0	9	1	3	1	0
小規模多機能事業所 まほろば	27	1	2	13	2	4	4	1
看護小規模多機能型 居宅介護 然	21	0	0	7	5	4	2	3
合計	101	10	5	37	14	16	14	5

事業所	通いサービスの 利用定員	宿泊サービスの 利用定員	1日あたりの利用者			
			通いの 利用者数	泊まりの 利用者数	訪問の 利用者数	短期 利用者数
緑の家	15	9	12	7	0	0
川津の家	15	9	10	6	1	0
小規模多機能型居宅介護 事業所 オリーブの花	18	9	12	8	6	0
小規模多機能事業所 まほろば	18	9	16	8	13	0
看護小規模多機能型 居宅介護 然	18	6	11	4	4	0
合計	84	42	61	33	24	0

・ 認知症対応型通所介護

単位：（人）

事業所	定員数	1日あたりの利用者		
		坂出市被保険者	坂出市外被保険者	合計
グループホームやすらぎの家きやま	3	0	0	0
デイサービスセンターらくだや	12	6	0	6
デイサービスカーネーション	10	6	0	6
認知症対応型通所介護 グループホームみかんの花	3	1	0	1
認知症対応型デイサービスメイプル	6	0	0	0
合計	34	13	0	13

・ 地域密着型通所介護

単位：（人）

事業所	定員数	1日あたりの利用者		
		坂出市被保険者	坂出市外被保険者	合計
デイサービス ふくろう	18	12	1	13
デイサービスセンター 結坂出	10	7	1	8
フィットネスデイサービス 「ファンデイズ」	30	27	3	30
みんなの広場「悟」	10	6	1	7
合計	68	52	6	58

・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

単位：（人）

事業所	定員数	1日あたりの利用者		
		坂出市被保険者	坂出市外被保険者	合計
巡回ケアきやま	25	1	0	1
松寿会定期巡回サービスセンター	25	6	0	6
合計	50	7	0	7

・ 医療療養型病床

（※医療療養型病床の転換先等、待機者数についての回答事業者は0）

単位：（人）

事業所	定員数	平成29年6月1日現在の利用者数		
		坂出市被保険者	坂出市外被保険者	合計
宗教法人カトリック聖ドミニコ宣教修道女会 坂出聖マルチン病院	40	28	12	40
医療法人社団 赤心会 赤沢病院	21	10	11	21
合計	61	38	23	61

(2) 介護医療院の創設について

問 2. 平成30年度介護保険制度の一部改正で、「長期療養のための医療」と「日常生活上の世話（介護）」を一体的に提供する新たな介護保険施設（医療提供施設）として、「介護医療院」の創設が見直されていますが、新規転換する意向はありますか。

介護医療院への新規転換の意向についてたずねたところ、「意向あり」の意見が2件、「意向なし」の意見が1件挙げられました。

意向がある意見としては、前向きに考えたい、高齢者や障がい者、生活困窮者等を包摂した支援活動などを行うなどとなっています。

一方、意向がない意見も、介護医療院への新規転換の意向はなくても、認知症や独居で寝たきりになってしまったかたへの社会的保護を目的とした病床を検討中となっています。

図表 2 介護医療院の創設について

・意向あり 2件

No.	事業者	意見
1	医療法人社団	もし適用があれば、転換を考えたい。
2	有限会社	有料老人ホームから転換することが可能であれば前向きに考えていきたい。

・意向なし 1件

No.	事業者	意見
1	医療法人	なし。しかし認知症、独居で急に寝たきりになってしまったかたの一時的な社会的保護を目的とした病床を持ちたいと考えている。平成30年度より地域包括ケアに積極的な役割を果たす医療機関に認められる病床を検討している。

3 今後の介護サービスへの取り組み意向について

(1) 介護サービスの取り組み意向

問3. 下記介護サービスのうち、取り組み意向について、あてはまるものに○印（複数回答可）をつけてください。

介護サービスについて、今後取り組み意向があるかどうかをたずねたところ、下記の事業者では「取り組み意向がある」または「検討中」であり、開設希望時期などの回答が得られました。回答があった事業者では、平成30年～31年が開設希望時期となっています。

一方、39事業者中、30事業者以上が今後の介護サービスについての取り組み意向は「予定なし」と回答しており、現在の介護サービスの提供を維持する傾向がうかがえます。

図表3 介護サービスの取り組み意向がある、または検討中の事業所

※調査票では「取り組み意向がある」場合に開設希望時期等を記述する設定ですが、「検討中」で開設希望時期等の記述があった場合は、表に含んでいます。

サービス名	開設希望時期	希望場所	床数	事業者
訪問介護	平成31年12月	C圏域		社会福祉法人
通所介護	平成31年7月	D圏域		社会福祉法人（検討中）
看護小規模多機能型居宅介護	平成31年12月	C圏域	9	社会福祉法人
認知症対応型共同生活介護	平成31年12月	C圏域	18	
認知症対応型通所介護	平成31年12月	C圏域		
地域密着型通所介護	平成30年4月	市外		株式会社
特定施設入居者生活介護	平成31年4月	B圏域	29	社会福祉法人
	平成30年4月	E圏域	39	医療法人社団
介護老人保健施設	平成30年4月	D圏域	20	社会福祉法人
短期入所者生活介護	平成30年4月	B圏域	9	社会福祉法人（検討中）
その他 （軽費老人ホーム、ケアハウス）	平成31年6月	D圏域	20	社会福祉法人（検討中）

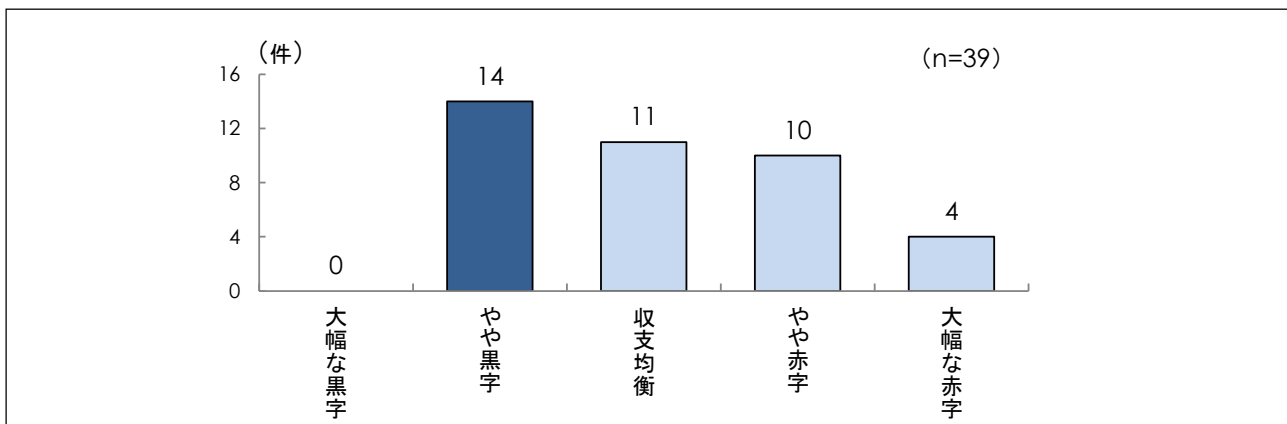
4 事業運営状況や問題点、課題等について

(1) 事業の運営状況について

問 4. 介護保険事業運営における収支状況について教えてください。(〇は1つ)

介護保険事業運営における収支状況についてたずねたところ、「やや黒字」の事業者が14件と最も多くなっています。次いで「収支均衡」が11件、「やや赤字」が10件、「大幅な赤字」が4件となっています。

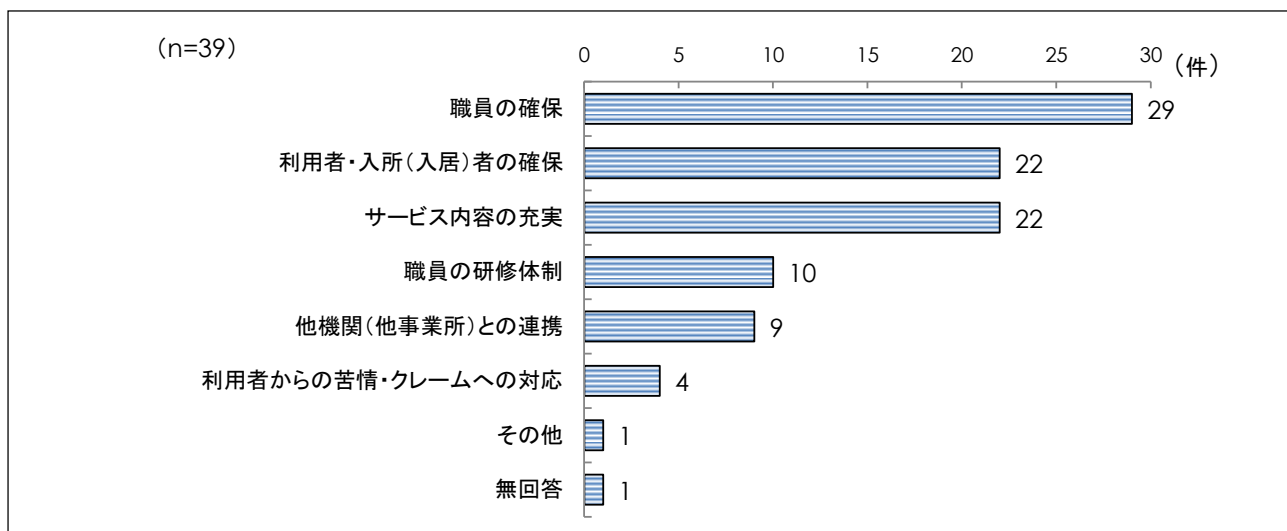
図表 4 事業の収支状況について (全体)



問 5. 事業運営の課題について、どのように考えていますか。(複数回答可)

事業運営の課題についてたずねたところ、「職員の確保」との回答が最も多く、29件となっています。次いで「利用者・入所(入居)者の確保」, 「サービス内容の充実」がともに22件となっており、この3項目が大きな課題となっています。

図表 5 事業運営の課題について (全体/複数回答)

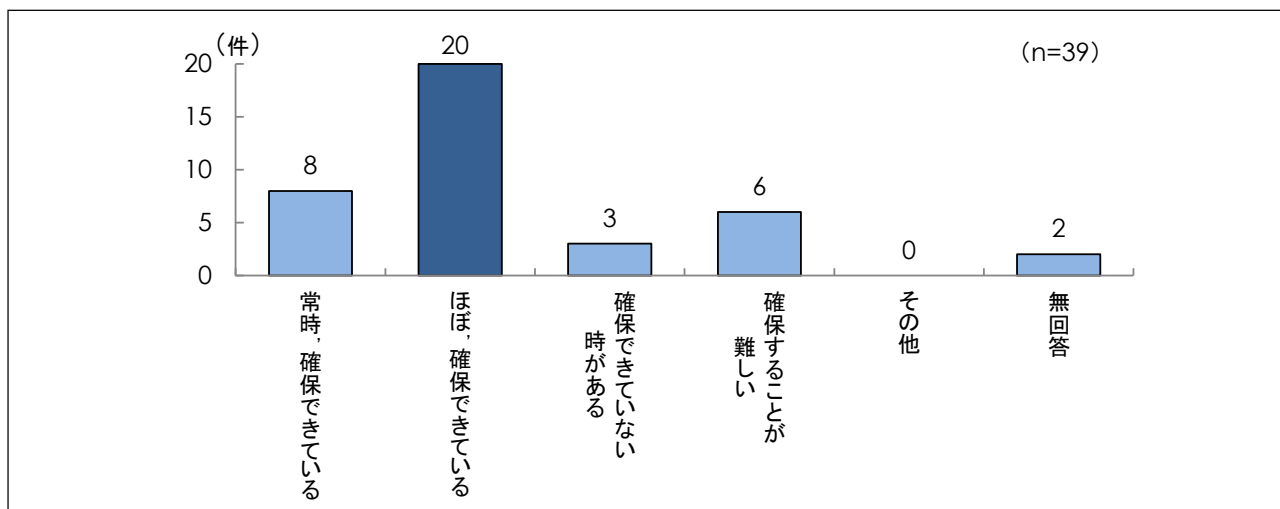


(2) 事業所における人材確保と取り組みについて

問 6. 人材確保について、貴事業所は必要とする職員数を常時確保できていますか。(〇は1つ)
(必要とする職員数とは、人員基準に基づく人数だけには限りません)

事業所において、職員数を常時確保できているかについてたずねたところ、全体の39件中「ほぼ、確保できている」が20件、「常時、確保できている」が8件となっており、半数以上の事業所が人材の確保がある程度できていると回答しています。

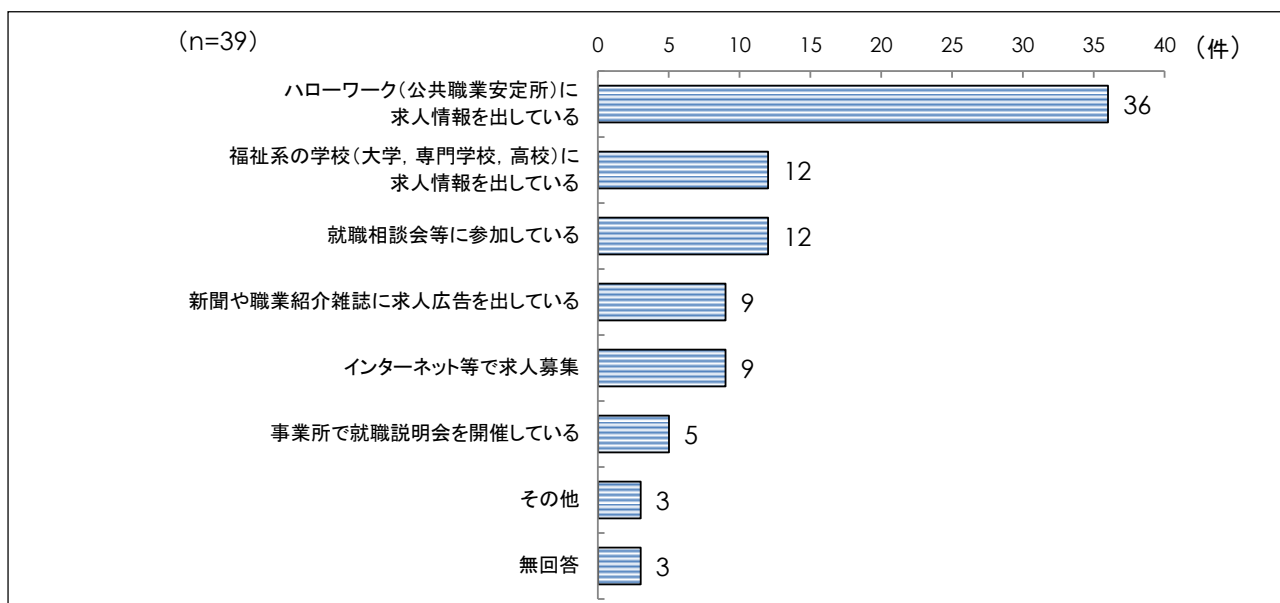
図表 6 人材確保について (全体)



問 7. 職員確保をどのような方法で行っていますか。(複数回答可)

職員の確保をどのような方法で行っているかについてたずねたところ、「ハローワーク(公共職業安定所)に求人情報を出している」が36件と最も多く、次いで「福祉系の学校(大学, 専門学校, 高校)に求人情報を出している」, 「就職相談会等に参加している」がともに12件となっています。

図表 7 職員確保の方法について (全体/複数回答)

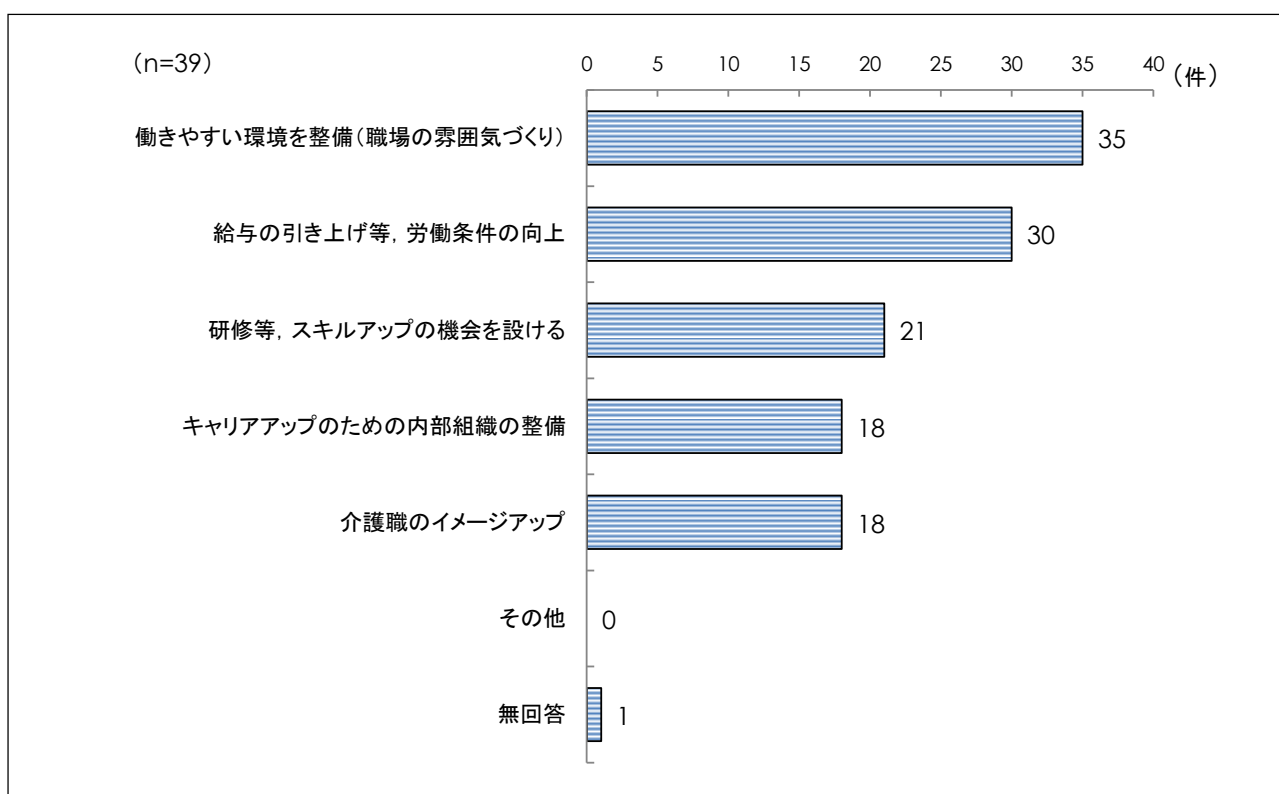


問 8. 職員が定着するために必要と思われることは何ですか。（複数回答可）

職員が定着するために必要なことについてたずねたところ、「働きやすい環境を整備（職場の雰囲気作り）」が 35 件と最も多く、次いで「給与の引き上げ等，労働条件の向上」が 30 件となっており，全体の 39 事業者中，大半の事業者がこの 2 項目が必要だと回答しています。

また、「キャリアアップのための内部組織の整備」，「介護職のイメージアップ」はともに 18 件となっており，約半数の事業者が必要であると回答しています。

図表 8 職員定着のために必要なこと（全体／複数回答）



問 9. 平成 28 年度の職員の採用・離職状況を教えてください。

平成 28 年度の職員の採用・離職状況をたずねたところ、22 事業者より回答が得られました。職員数は平成 28 年度から 29 年度にかけてやや増加しており、常勤職員数よりも非常勤職員数の方が多くなっています。また、離職者数をみると、常勤が 62 人、非常勤が 44 人と常勤が上回っています。

一方、離職者の平均勤続年数を「3 年未満」、「3～5 年未満」、「5 年以上」の 3 つのケースに分類してみると、常勤の離職者が「3 年未満」との回答は 4 件であるのに対し、非常勤では 11 件とかなり多くなっています。また、「うち勤続 3 年未満」の離職者数の合計は常勤 19 人に対し、非常勤が 25 人となっています。常勤に比べ、非常勤では 3 年未満で離職する傾向がやや高くなっています。

図表 9 H28 年度職員採用・離職状況

単位：(人)

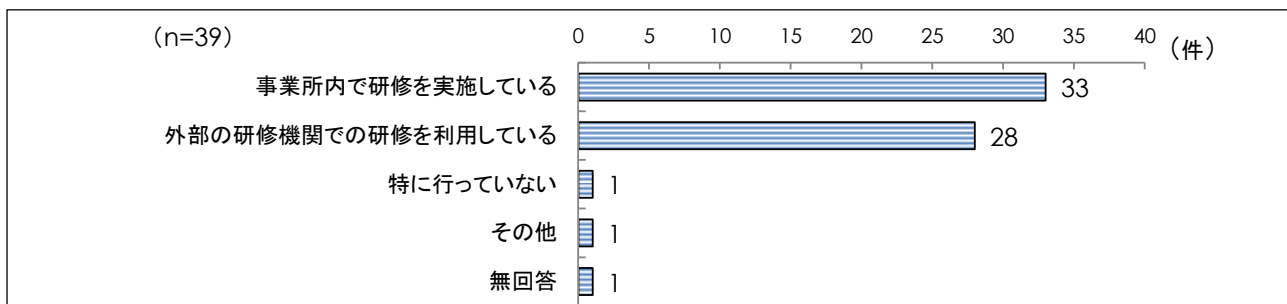
(n=22)		職員数	離職者数	採用者数	採用者数	職員数
		平成28年 4月1日時点	平成28年度中の異動 (4/1～3/31)		平成29年 4月1日	平成29年 4月1日時点
介護職員	常勤	376	46	35	10	375
	非常勤	199	23	25	2	203
看護職員	常勤	75	9	10	0	76
	非常勤	50	11	10	0	49
その他	常勤	133	7	10	1	137
	非常勤	75	10	14	3	82
合計	常勤	584	62	55	11	588
	非常勤	324	44	49	5	334

	離職者の平均勤続年数			うち勤続3年未 満合計人数
	3年未満	3～5年未満	5年以上	
常勤	4件	4件	4件	19人
非常勤	11件	2件	3件	25人

問 10. 職員の資質向上の取り組みとして、研修や資格取得について以下のような取り組みを行っていますか。(複数選択可)

職員の資質向上の取り組みについてたずねたところ、「事業所内で研修を実施している」が 33 件、「外部の研修機関での研修を利用している」が 28 件となっており、全 39 事業者中、大半の事業者が何らかの研修等を実施しています。

図表 10 職員の資質向上の取り組み(全体/複数回答)



(3) 地域共生社会に関する取組について

問 11. 厚生労働省が、介護保険法、障害者総合支援法、児童福祉法、社会福祉法を一体として、「地域共生社会」の実現に向けた取組の推進を図っていますが、このことについてのご意見や、今後、貴事業所において取り組もうとしている事があれば、お答えください。

「地域共生社会」の実現に向けた取組の推進に対する意見等についてたずねたところ、「積極的に取り組みたい、前向きに検討したい」という内容の意見が 11 件、「現状では難しい」という意見が 6 件挙げられています。

「積極的に取り組みたい、前向きに検討したい」という意見の主な内容は、高齢者向けサービスの住宅にも障がい者の受け入れを検討したい、待機児童問題の解決や、障がい児が高齢になるまで一体的に支援していきたいなど、受け入れ態勢を広げていきたいという意向がうかがえます。

一方、「現状では難しい」という意見の主な内容は「介護、障がい者、児童」などの専門知識を総合的に持つ人材を育てるのは時間がかかる、制度が複雑になって現場が混乱するのではないかと、など一体化するのは良いが、今すぐには難しいのではないかとといった意見が多くなっています。

図表 11 地域共生社会に関する取り組みについて

・積極的に取り組みたい、前向きに検討したい 12 件

No.	事業者	意見
1	社会福祉法人	新たな取り組みとは言えないが、他の介護事業所との棲み分けにより、社協が運営する介護事業所としての特徴を生かしていきたい。(地域福祉の視点で、高齢者・障がい者・生活困窮者等を包摂した支援活動)
2	医療法人社団	グループとして積極的に取り組んでいきたい。
3	社会福祉法人	福祉として一体的に取り組んでいきたい。
4	有限会社	協力して「地域共生社会」を実現させたい。
5	一般社団法人	市が主催する研修の参加や、市の取り組みについて情報を得て、協力出来ることがあれば協力したい。
6	社会福祉法人	社会福祉法人の責務として、社会貢献に前向きに取り組みたいと考えている。「ふれあいネットワーク」への協力や通所介護利用家族の認知症介護支援等を行ってきたい。また、会議室等の利用希望があれば、場所提供を行いたい。
7	社会福祉法人	障がい者共同生活援助社会福祉施設、軽費老人ホーム等の開設を検討している。
8	医療法人社団	サービス付き高齢者向け住宅の特徴を生かし、若干の支援で日常生活を送ることができるのであれば、障がい者の受け入れを検討したい。
9	医療法人	今後は待機児童問題解決と、児童と高齢者の関わりを増やすため、認定こども園、さらに医療依存度の高い障がい児保育、デイの提供、また重度身体障がい者を小児期～高齢になるまで一体的に支援していけるサービスの提供を検討中。

10	社会福祉法人	香川おもいやりネットワークの取り組みなどを通じて進めていきたい。
11	株式会社	老人と児童の交流を通じた病状の改善を目指している。障がい児だけでなく、障がい者支援も行い、それぞれの理解を深め、社会の中での共生につなげたい。
12	社会福祉法人	既に行っている事業は、「縦割り」から「丸ごと」への転換に繋がるものだと考えている。新たに開設される事業には積極的に取り組む事、既の実施しているサービスにおいては新たな事業所の開設を目指すこと、そして、法人として住み慣れた地域で過ごせる支援を継続することに努めていく。

・現状では難しい 6件

No.	事業者	意見
1	社会福祉法人	すぐには無理だと思う。法整備により、仕組みは整えることはできても、それを支えられるだけの専門職は簡単に育成できないと思う。包括的支援は理想的だが、現実として機能させることができる専門職の育成にはかなり時間を要すると考える。ジェネラリストソーシャルワーク(総合的包括的な社会福祉援助技術)は、奥が深く、簡単に習得・実践出来るほど、甘くはない。
2	医療法人社団	「地域共生社会」の実現については、賛成と考える。ただ、現実的には障がい者や認知症高齢者の人達の地域の受け入れはまだまだと思われ、当施設においては、地域との交流の場を設けて、講習会等で地域の人達に少しでも理解してもらえたらと思う。また、県や市町村でもこういった講習会をもっと開催してほしいと思う。
3	株式会社	障がい者、児童の知識が無い職員が多いため今のところ取り組む予定はない。
4	株式会社	地域共生社会の取り組みについては、どういう風に取り組んでいくのか今のところ理解できないが、これらを一体化することで複雑になり過ぎて、現場での混乱があるのではないかと。共生型サービスの導入で、現場での制度的な問題のクリア、また、人員の確保、介護報酬の分け方など介護保険の方向性が不安である。取り組み方は、ある程度地域共生社会の方向性が決まらなければ何とも言えない。
5	NPO 法人	地域包括ケアの一環と思われるが、従来の縦割り行政や財源確保等種々の問題点を克服しなければならないと思う。
6	有限会社	様々な法があり、複雑で困っている。このため新しい取り組みは賞賛できる。しかし、大手への優遇ではないのか。当事業所においては勘案しているが検討中。障がいは就労に対しては強化されているが、重度になると受ける施設も少ない。現状でできるのか疑問。

(4) 地域交流について

問 13. 地域交流について、貴事業者は地域との交流を図っていますか。(〇は1つ)

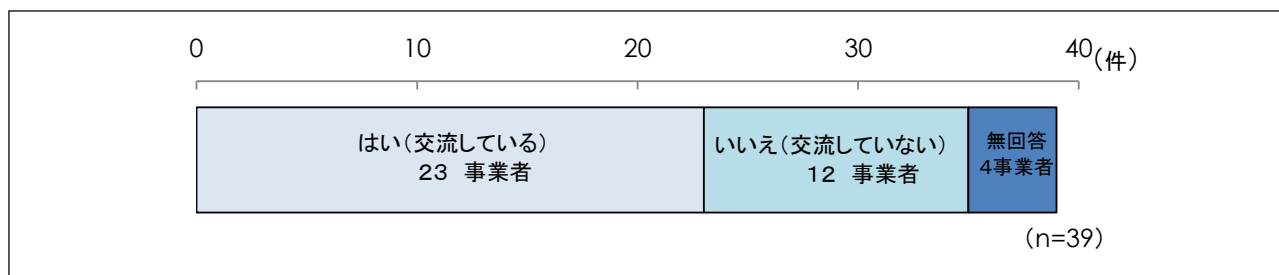
【問 13.で「はい」と回答された場合】

問 13-1. どのように交流していますか。また、地域交流について取り組んでいることや今後取り組む予定のものがあればお答えください。

地域交流を行っているかについてたずねたところ、全 39 事業者中「はい」が 23 件、「いいえ」が 12 件となっており、半数以上の事業者が地域との交流を行っていると回答しています。

また、「はい」と回答した事業者に対し、地域交流の内容についてたずねたところ 25 件の回答があり、主な内容としては、お祭りやスポーツ大会などのレクリエーション、勉強会やボランティア体験、配食活動など多岐にわたっています。

図表 13 地域交流について (全体)



図表 14 地域交流に対する取り組み内容

・レクリエーションなどによる交流 18 件

No.	事業者	交流の内容
1	社会福祉法人	認知症カフェ, 喫茶, ダンス, 夏祭り等。
2	有限会社	地域イベントへの参加, 事業所行事への案内, 緊急時の対応協力依頼。
3	医療法人社団	自治会の祭り, 行事等への参加。
4	医療法人社団	地域の自治会のイベントには積極的に参加し, 施設のイベントにも地域の方々を案内し, 交流をしている。地域ボランティアの方にもお願いし, 様々な交流をしている。
5	社会福祉法人	地域民生委員, 老人会, 自治会他各種団体への挨拶, 会合等への出席。地域で開催されるイベント等にも積極的に参加, 協力していく。
6	有限会社	施設の祭りには地域の方を招いて交流をしている。年 1 回近隣小学校の 4 年生と交流をしている。
7	社会福祉法人	祭りや, 講演会, 公開セミナー, ボランティア活動, ゲートボール大会の開催や, 地域のかたへの施設の一部を開放など。(抜粋)

No.	事業者	交流の内容
8	株式会社	①秋まつり—地域のボランティアの方が手伝ってくれる。②獅子舞—地域青年団の方が毎年施設に訪問。③クリスマス会—ボランティアの方、相談員の方を招待。④草刈—定期的に地域の方と草刈りを行っている。
9	株式会社	各施設で行われるお祭りのボランティア協力、さかいで産業展示交流フェアへの出店。
10	社会福祉法人	おれんじかふえを通じて、地域の方に参加してもらっている。また、地域の行事に積極的に参加して交流を図っている。
11	株式会社	毎年、地域の方への祭りを開催している。
12	社会福祉法人	年1回、地域へ向けてのバザー作品展の開催。
13	医療法人社団	地元行事への参加、地元文化祭への出展、地域自治会での講演。
14	医療法人	地域の会合に参加。
15	社会福祉法人	花見等。
16	医療法人社団	行事がある際には、自治会へ案内状を送付している。
17	医療法人	自治会に参加し、年中行事を一緒に参加している。
18	株式会社	地域の清掃活動や水利事業等に参加。地域住民との連携を図っている。

・相談事業や体験学習 3件

No.	事業者	交流の内容
1	株式会社	勉強会での福祉用具の普及・啓発活動。
2	社会福祉法人	ボランティアや慰問の受け入れ、職業体験やボランティア体験などの中高生の受け入れ。
3	宗教法人	行事で「健康まつり」があり、その中で「介護相談」ブースを設け、地域の方々の質問や要望に答えている。

・その他 4件

No.	事業者	交流の内容
1	社会福祉法人	地区社会福祉協議会のふれあい配食へお弁当を提供し、地域の一人暮らしのかたへのケアを一緒に行っている。
2	有限会社	近所の人のお家に訪問して話をする。近所の方が手作りのもの（果実や新聞紙で作った入れ物等）を持ってきてくれる。
3	株式会社	現段階では、地域の介護サービス事業所との情報交換や共有を図る程度であるが、今後、医療機関やその他地域資源等との円滑な連携が図れるように努めたいと考えている。
4	社会福祉法人	香川おもいやりネットワークに取り組む中で、社会福祉協議会などの連携を強化したい。

5 医療連携について

(1) 医療ニーズへの対応として重要なこと

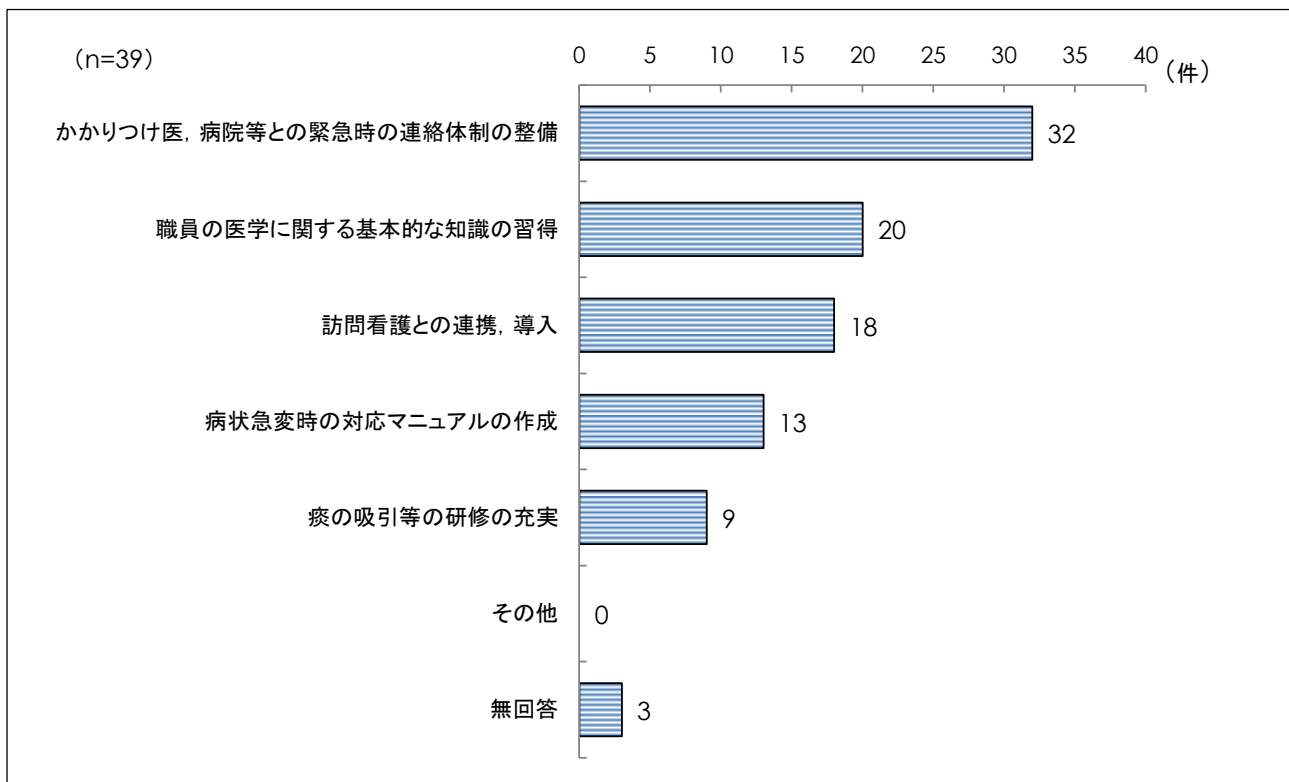
問 12. 医療ニーズがあるかたへの対応について、現在の課題および将来必要な取り組みとして何が重要であると考えますか。（複数回答可）

医療ニーズがあるかたへの対応として重要なことをたずねたところ、「かかりつけ医、病院等との緊急時の連絡体制の整備」が32件と最も多く、大半の事業者が、将来の取り組みとして重要であると回答しています。

次いで、「職員の医学に関する基本的な知識の習得」が20件、「訪問看護との連携、導入」が18件と続いており、職員の資質向上や他事業との連携などが必要だとされています。

さらに、「病状急変時の対応マニュアルの作成」が13件、「痰の吸引等の研修の充実」が9件と続いています。

図表 12 医療ニーズがあるかたへの対応として重要なこと（全体／複数回答）



6 認知症について

(1) 認知症の方へのサービスの工夫

問 14. 認知症のかたに対するサービス提供において、工夫している点などがあればお答えください。

認知症のかたに対するサービス提供の際に工夫している点についてたずねたところ、合計41件の回答がありました。(1つの事業者に複数意見有り)

工夫している点を主な内容で分類すると、認知症のかたとの会話の時に心がけることなどの「話し方や接し方の工夫、信頼関係の構築など」が11件、家でいたときと同じような環境づくりや、落ち着いた環境の提供などの「本人に合わせた対応」が8件、適度な運動やリハビリ、日常生活動作を一緒に行うなどの「進行予防対策」が7件、職員に対して研修を行うなどの「職員の知識を深める」が6件、同じ施設で同じ認知症のかたに対して共通の意識を持つなどの「職員同士の情報共有」が5件、目印をつけるなどの生活のしやすさの工夫が2件、家族への情報提供などの支援が2件となっています。

図表 15 認知症のかたへのサービス提供で工夫している点

・話し方や接し方の工夫、信頼関係の構築など 11件

No.	事業者	工夫している点
1	社会福祉法人	認知症のかたもひとそれぞれ特徴が違うので、とにかく安心感を与える言葉かけと自尊心を傷つけないような話し方をする。話を聞くときもゆっくり丁寧に聞くようにしている。
2	医療法人社団	家族の出勤、帰宅時間に合わせて、都度、送迎時間の調整を図りながら、独居とならない様支援している。閉じこもりがちであったり、デイサービス利用の拒否が強い方には職員が訪問に出向き、なじみの関係作りをしてデイサービスの利用へつなげられるよう支援している。
3	医療法人社団	同じ顔ぶれの小グループでのレクリエーションの実施 肯定的な対話や、相手に対し尊厳を持つことへの工夫と徹底。
4	株式会社	わかりやすさ、丁寧、繰り返し説明。
5	株式会社	認知症のかたもプライドはあるので、尊重することで信頼関係を築けるように支援している。認知症を理解することで、拒否することなく、傾聴、同調している。
6	医療法人	相手の目を見て話す、相手の姿勢に近づく、大きな声を出さない、周囲で騒がない、個別対応する。
7	NPO法人	サービス予定日時の再確認(前日の電話)。
8	株式会社	認知症のかたに対して、「病人」として接するのではなく、「人」として接するようにしている。認知症のかたと、介護をする人との信頼関係の構築が大切であると考えている。
9	社会福祉法人	ユマニチュードの考えを活用する。
10	有限会社	家族支援(送迎時、連絡ノート等)でのコミュニケーション。
11	有限会社	ユマニチュード技法を行っている。

・環境を変えない、落ち着けるようになど本人に合わせた対応 8件

No.	事業者	工夫している点
1	有限会社	生活暦等, 利用者情報の詳細な把握, 利用者の気持ちに合わせた支援。
2	社会福祉法人	①アセスメント, インテークの際に, 職種, 嗜好, 趣味, 特技を把握し, 個別レクリエーションが取り入れやすいようにしている。②入所のかたについては, 自宅で使用されていた家具等を持参いただき, 住み慣れた環境に近づけるようにしている(住環境の整備)。③24時間シートの作成。
3	医療法人社団	落ち着いて過ごせる場所(座席)の提供。
4	社会福祉法人	毎利用時は同じ座席や居室を可能な限り用意し, 環境を変えないように配慮。また, 多動のかたには, 見守りの出来る席にするなどしている。
5	医療法人社団	利用時間の調整, 利用者に知人がいる場合, 同日になるよう利用日の調整等にて対応している。季節感が味わえるよう工夫している。
6	NPO 法人	タイプ別の症状や程度に合わせた対応。
7	社会福祉法人	できる事(家事)を奪ってしまわないよう, 家での役割を持てるようにしている。
8	社会福祉法人	家と同じような暮らしの支援 ①利用前の生活を情報収集し, 24時間シートによりケアを行う。②居室, リビングも家と同じように落ち着ける環境にする。③家族の協力をお願いする。

・進行予防対策 7件

No.	事業者	工夫している点
1	社会福祉法人	「くもん学習療法」を導入して, 認知症の方の認知症の進行予防, 専門職による認知症短期集中リハビリの提供。(抜粋)
2	有限会社	認知症状の変化(進行)に応じて, 細かく支援方法を見直すように努めている。
3	株式会社	有酸素運動とシナプソロジーを組み合わせた動き。今後は更に, 内容の充実を図る予定。
4	株式会社	日常生活動作を一緒に行うことで, 以前していたことの記憶を取り戻し, 意欲向上へワンステップを心がけている。
5	有限会社	回想法, リアリティオリエンテーションを実施。
6	医療法人社団	適度な運動(パズル, 机上訓練, 手指巧緻性訓練など)の作業療法。
7	医療法人社団	脳トレドリルなどの提供。

• 職員の知識を深める 6件

No.	事業者	工夫している点
1	社会福祉法人	職員に対し、認知症の知識を深めてもらう。①グループ内全体研修と事業所内研修。 ②困難事例検討(H29～師長会中心)。③外部認知症研修への参加。
2	社会福祉法人	本人の状況を個別化してアセスメントし、できるかぎりケアも個別化して行う。年1回の施設内研修で認知症に関する学びを深めて、適切なケアが出来るように努めている。
3	医療法人	認知症に関する研修会をスタッフが受けることにより、利用しやすい施設づくりを考えている。
4	有限会社	認知症の研修を行っている。
5	医療法人社団	認知症に対する研修会を行っている。
6	社会福祉法人	認知症介護実践研修(実践者研修・実践リーダー研修)には、毎年欠かさず各事業所から受講要件を満たす者を選出、参加。(抜粋)

• 職員同士の情報共有 5件

No.	事業者	工夫している点
1	医療法人社団	施設、グループの中で情報をしっかりと共有し、チームで支えるケアを行っている。一人一人の対応が変わると、利用者のかたも不安に思うので、細かい配慮を行っている。
2	有限会社	研修を行い、全スタッフが共通の知識を持ち、統一した対応を行い、認知症のかたがたに不安を与えないサービスを提供している。
3	一般社団法人	利用者が困らないように、サービス提供について各事業所と統一を図る。
4	有限会社	職員で情報を共有する。
5	株式会社	各利用者ごとにサービスの提供を通じて、どのような症状が表れているか、職員間で情報を共有し、それぞれに合わせた介護を心がけている。

• 目印をつけるなど、わかりやすくする 2件

No.	事業者	工夫している点
1	医療法人社団	部屋やトイレへの目印、日付の明示。
2	医療法人社団	各部屋、トイレ、浴室、リハビリ室などに分かりやすい看板設置。

• 家族への支援 2件

No.	事業者	工夫している点
1	株式会社	家族への支援を常に気にかけている。
2	宗教法人	本人のケアと同時に、家族の悩みや適切な対応の方法などが情報収集できる集まり、講演会などの情報提供を行う。

(2) 認知症のかたを支援する上での課題

問 15. 認知症のかたを支援する上での課題（悩み）などがあればお答えください。

認知症のかたを支援する上での課題等をたずねたところ、32 件の意見が寄せられました。最も多く挙げられた課題は、意思疎通の難しさや、徘徊、在宅支援等の認知症の症状への対応が 12 件となっています。認知症のかたへのサービス提供の工夫でも、「接し方、コミュニケーションの取り方」、「本人に合わせた対応」などの工夫がなされていましたが、認知症の症状に対する対応にはまだまだ課題や悩みが多いようです。

次いで、認知症に対する知識、理解不足等により生じる課題が 7 件、介護職員不足や一人一人に対応する時間がないなどの課題が 5 件、病院などとの連携についてが 3 件、その他として職員間の情報共有や家族支援に対する課題などが 5 件となっています。

図表 16 認知症のかたを支援する上での課題

・認知症の症状への対応（施設内・在宅） 12 件

No.	事業者	課題
1	社会福祉法人	意思疎通できない場合や被害妄想時の対応の難しさ。
2	医療法人社団	スタッフへの暴力行為、暴言といった人を傷つける姿を、自然な、その人本来の姿に戻してあげたい。
3	医療法人社団	放尿、異食行為(食便含む)への対応。
4	株式会社	機器操作に慣れることに時間がかかったり、新しい物を導入することへの抵抗が強い。怒りやすいかたは、なかなか話が進まない。
5	株式会社	在宅での支援は限界がある。施設での対応が多くなっている。
6	社会福祉法人	建物の構造上、徘徊等の多動なかたの見守りが十分行えず、転倒など防げない事故があること。
7	医療法人	徘徊時の対応
8	医療法人社団	日中は開錠(玄関)しているため、無断で外出も可能な状況にある。夜間の対応も難しい。
9	社会福祉法人	ケアが後手に回っている。
10	株式会社	一人一人に対する対応方法がわかっても、一対一で個室で対応するのではないので、他の利用者のかたとの関係や、状態を調整し、うまく対応することが難しい。
11	NPO 法人	配食・洗濯等出来る限りの支援を行っているつもりであるが、自宅(居宅)中の利用者の行動に悩みがつきまとう。
12	医療法人社団	暴力や帰宅願望のあるかたへの対応に困っている。

・認知症に対する理解不足 7件

No.	事業者	課題
1	有限会社	認知症についての理解不足(症状, 支援方法, 相談場所)。
2	社会福祉法人	認知症ケアの知識・経験不足からくる, 適切な言葉がけや身体介護の方法。
3	社会福祉法人	周囲の理解がないことが, 認知症のかたの不安・不穏を引き起こしていることがある。家族や地域を含む認知症のかたに関わる全てのかたの, 認知症への理解を深めることだと考えている。(抜粋)
4	社会福祉法人	新オレンジプラン等の動向により, 国民の認知症に対する意識が変化してきているが, まだまだ偏見や理解不足は根強い。そのことにより, 関わる人達(特に介護職員や看護職員)の技術向上が進みきらない。
5	株式会社	認知症に対する家族の理解が出来ておらず, 認知症扱いがあからさまに出て, 本人を傷つけている。家族には認知の対応を説明するが, 分かっているも自身の親になると, ついつい暴言を吐き, 無視することが多々あるという。家族には強く言えない。
6	医療法人	家族の支援, 理解が乏しく家族への対応に苦慮する。
7	株式会社	認知症のかたと, そうでないかたの交流。

・人員不足, 時間不足 5件

No.	事業者	課題
1	社会福祉法人	現状の職員配置だと個別対応が困難な事例がある。常に見守り, 支援の必要なかたが複数おられたり, 他利用者への影響がある場合, 職員への負担が多い。
2	医療法人社団	ゆっくりと個別に関わる時間が少ないこと。
3	有限会社	介護職員の人員不足により, 以前できていた支援ができなくなったり, 回数が減ったりしてサービス提供の幅が狭くなっている。会社としては, もっといろいろしてあげたいが, 実現できていない。
4	株式会社	認知症のかた, 各々とゆったりした関わりを持つ時間が確保できない。
5	有限会社	職員不足。

・他事業所, 病院などとの連携 3件

No.	事業者	課題
1	宗教法人	医療の連携をもっとスムーズに行きたいが出来ていないのが現実である。
2	有限会社	病院受診への援助について。
3	社会福祉法人	認知症専門医との連携。

・その他（地域の協力、情報共有など） 5件

No.	事業者	課題
1	有限会社	地域の中での見守り、支え合い。
2	医療法人社団	認知症高齢者を支える家族も高齢化しており、在宅生活を継続する上で家族による見守りやケアが不十分になってきている。
3	有限会社	スタッフの情報の共有。
4	一般社団法人	訪問する時間はわずかな時間であり、利用者の一日の動きがわからないことがある。関わっているサービス担当者、情報共有をしても把握しきれず、対応が難しい場面がある。
5	医療法人社団	利用に対して拒否が強いかたへの対応に困っている。

（3）認知症ケアに関する研修について

問 16. 職員に対し、認知症ケアに関する研修は行っていますか。行っている場合は、具体的に研修内容をお答えください。

認知症ケアに関する研修を行っているかをたずねたところ、施設内で研修を行っている事業者が 13 件、施設外での研修に参加している事業者が 7 件、施設内で研修を行い、施設外での講習等にも参加している事業者が 8 件という結果となっています。また、研修内容の主な内容は、施設内でのテキストを用いた勉強会や、グループ研修、また、施設外では認知症サポーター養成講座や実践者研修などへの参加など多岐にわたっています。

●施設内で行われている研修の主な内容

- ・施設内の専門職員が研修を行う
- ・外部から講師を招いて内部研修
- ・認知症ケアマニュアル、社内報、テキスト等の資料を配布した勉強会
- ・グループで過去の経験等を発表し合う さまざまな事例について検討する など

●施設外で行われている研修の主な内容

- ・看護協会や介護労働安定所などが主催する研修会に参加
- ・認知専門ドクターの講演会に参加 など

●施設内、外の両方で行われている研修の主な内容

- ・認知症実践者研修や認知症リーダー研修等の参加と内部研修
- ・認知症サポーター養成講座受講と社内研修
- ・老人福祉施設協議会主催の認知症研修に参加と参加職員による報告会と研修
- ・外部研修に参加、参加した職員による施設内での研究発表
- ・毎月のミーティングでのサポート医より問題点の教示を受けることと外部研修への参加促進 など

図表 17 認知症ケアに関する研修について

・施設内での研修 13 件

No.	事業者	研修内容
1	社会福祉法人	介護サービスに従事する職員に対しては、年に1回以上、講師を招いて内部研修を実施している。
2	社会福祉法人	①認知症について(疾患, 症状, 治療, 対応)外部医師, 法人内職員が担当。②バリデーションについて法人内バリデーションワーカーが担当。
3	医療法人社団	各チームのリーダー, もしくは代表者が順番に自分たちの経験や調べてきた知識を発表し, 研修を行っている。参加対象者は医師や施設長を含め全員が参加。
4	社会福祉法人	①認知症ケアマニュアルを作成し, 全職員に配布②平成 29 年7月度職員全体会議にて研修を行った。研修内容は, 坂出市かいご課より配布されている, 「さかいで認知症 ほっとナビ」を資料として利用し, グループホームにて勤務経験のあるスタッフから過去の経験を踏まえて発表した。
5	有限会社	グループ全体で各部署が定期的にリーダーを中心とした発表者となり, 研修会を行っている。
6	医療法人社団	認知症の基本対応についての理解, 施設内の事例について検討。
7	医療法人社団	認知症についての資料を作成し, 職員全員に配布し, 勉強会を実施している。(認知症の特徴や周辺症状, その対応の仕方など)
8	有限会社	社内研修(冊子等によるもの)
9	株式会社	認知症ケアに関する研修は行っている。(正しい知識, 予防, 接し方, ケアの基本)
10	社会福祉法人	ユマニチュード研修, 認知症予防研修。
11	株式会社	認知症ケアの考え方, 介護技術, BPSD への対応, ケアプランについてテキストを用いて専門士が指導している。
12	有限会社	施設内では行っているが, 外部研修は行っていないので, 取り入れたいと考えている。
13	有限会社	認知症の症状(中核症状と周辺症状)・具体的支援方法(中核症状別と周辺症状別)・認知症のかたに対して, してはいけないこと。

・施設外での研修 7件

No.	事業者	研修内容
1	株式会社	認知症の外部研修に計画的に参加。
2	一般社団法人	病院や看護協会等が実施する研修に参加している。
3	株式会社	回生病院で行う認知ケアの研修参加。みのりクリニック、山城クリニックなど認知専門のドクターの講演参加。
4	宗教法人	職員が参加できる外部の研修があればなるべく参加出来るようにしている。
5	有限会社	介護労働安定所が主催する研修に参加。
6	医療法人	院外での研修及び多職種の勉強会の参加。
7	NPO 法人	県やケアマネ協会及び社会福祉会等の研修会に出来る限り参加している。

・施設内、外両方での研修 8件

No.	事業者	研修内容
1	医療法人社団	認知症実践者研修や認知症リーダー研修等の認知症ケアに対する外部研修への職員の派遣、認知症ケアに関する内部研修実施。
2	社会福祉法人	①法人全体で行う、法人内研修「認知症への理解」②各事業所単位で行う認知症研修「日々の業務から学ぶ認知症のかたへの対応」③法人外では認知症介護実践研修(実践者研修・実践リーダー研修)④認知症をテーマにした講演会・研修会への参加(抜粋)
3	株式会社	社内研修、認知症サポーター養成講座受講、認知症ケア向上講座受講。
4	社会福祉法人	年1回の施設内研修で認知症に関する研修を行っている。(内容・・・中核症状と BPSD, BPSD の原因と考え方・対処方法)また、認知症実践者研修やリーダー研修等に積極的に職員を派遣し、資質向上に努めている。
5	社会福祉法人	認知症介護実践研修や実践リーダー研修を毎年受講。研修に参加した職員を中心に実践課題の研究発表テーマに取り組んでいる。老人福祉施設協議会主催の認知症研修に参加。研修参加職員の報告などを全職員に向けて、認知症研修として年2回行っている。
6	医療法人社団	「認知症がどんな病気なのか、どのように接すればよいのか」などについて、定期的に内部研修を行うとともに、外部研修にも参加させている。
7	医療法人	毎月ミーティング時に、サポート医より問題となる点について、教示を受けている。研修会(外部の)への参加を促している。
8	有限会社	個別研修、外部研修に参加。

(4) 認知症のかたに対する今後の取り組みについて

問 17. 今後、認知症のかたを対象とした施策や取り組みの考えなどがあればお答えください。
 (例：見守り支援、つながり支援、配食、などの多様な生活支援)

今後の認知症のかたへの取り組みなどについてたずねたところ、29 件の意見が寄せられました。主な内容で分類すると、「地域での見守り支援や行政の支援」が7件、「症状の進行予防や早期対応」が6件、「情報提供や相談事業」が5件、「人材育成」が4件、「食事や居場所の提供」が4件、「在宅の認知症のかたへの対応」が3件となっています。

図表 18 認知症のかたに対する今後の取り組みについて

・地域での見守り支援や行政の支援 7件

No.	事業者	取り組み, 施策など
1	有限会社	地域での見守り支援, 認知症予防の取り組みの周知。
2	医療法人社団	地域ぐるみでの見守り。
3	一般社団法人	ケアマネジャーや各事業所だけでの見守りは難しい。民生委員のかたやご近所のかたにも協力をしてもらいたいが, 個人情報の取り扱いもあり, 協力の依頼をできない場合がある。民生委員のかたや近所のかたに対しての協力依頼のマニュアルがあれば良いと思う。
4	有限会社	認知症は地域で見守る必要がある。このため地域を活用している施策が重要。
5	社会福祉法人	安否確認支援(地域の方を中心としたネットワークの構築)。(抜粋)
6	社会福祉法人	おれんじかふえの受託・運営, 坂出まいまいシステムへの登録と協力。
7	株式会社	見守り支援・つながり支援など, 市からの依頼があれば, 賛同する。

・症状の進行予防や早期対応 6件

No.	事業者	取り組み, 施策など
1	医療法人社団	服薬支援, 慰問, ボランティア支援, 見守り支援, つながり支援。
2	医療法人	早期, 若年性認知症の方へのリハビリデイの検討。
3	社会福祉法人	T-DAS を富士産業(丸亀市)のアロマセラピーを使った MCI(軽度認知障がい)からの認知症予防を推進すべき。
4	株式会社	認知症の方への改善プログラムと予防の方の為の予防プログラムのミックスプログラムの提供。
5	有限会社	多職種支援の中で, リスク共有し, 地域包括ケアをすすめる。
6	社会福祉法人	定期健診の中に認知症診断を追加(認知症の早期発見・早期対応・進行予防)。(抜粋)

• 情報提供や相談事業 5件

No.	事業者	取り組み, 施策など
1	社会福祉法人	介護事業所として、認知症予防の知識習得やインフォーマルな活動も含めてサービス提供体の現状を把握し、いつでも情報提供できるようにしたい。
2	株式会社	徘徊や見守り機器の情報提供や情報交換ができれば良いと考える。
3	医療法人社団	地域住民のかたで認知症高齢者の相談事があれば、随時受け付けている。
4	医療法人社団	認知症高齢者やその家族に対しての家族会や勉強会を開催し、認知症を理解してもらうとともに、家族の悩み等を共有できればと思っている。
5	社会福祉法人	利用者がどのようなサービスを受け、過ごしているか、家人に見ていただけるようデイ参観日を開催した。今後、参加されたかたの介護相談などを行い、家人へのサポートを行ってきたい。

• 人材育成 4件

No.	事業者	取り組み, 施策など
1	医療法人社団	認知症の家族、地域のかたがたへ向けた正しい認知症の知識を普及するための講座、認知症サポーターキャラバンが数名いるので、サポーター養成を行っていききたい。
2	社会福祉法人	認知症サポーターの養成の継続(認知症の理解をしている人を増やすことで、認知症のかたが過ごしやすい環境を作る)。 小学校の授業(科目:生活や道徳)などに認知症に関するものを取り入れる(認知症のかたを取り巻く環境の改善:認知症への理解を深め、認知症のかたが過ごしやすい環境を作る為)。(抜粋)
3	社会福祉法人	①24時間シートの作成②「香川県認知症介護基礎研修」や、坂出市医師会在宅医療介護連携支援センター主催の「認知症を地域で支えるための多職種研修会」への参加後、研修者から報告・発表等で周知を考えている。
4	株式会社	研修等を継続的に受けることで知識や認識を深めるとともに、市への取り組みにしっかり協力していきたい。

• 食事や居場所の提供 4件

No.	事業者	取り組み, 施策など
1	有限会社	併設の施設に大きな厨房があるので、必要とされているかたへの食事の提供ができればと思う。
2	株式会社	3度の食事が摂れていないかたが多く、配食サービスはしたいが、届出などの縛りがあるため、ボランティアで食事を届ける時がある。何とか簡単に、配食支援が出来るようにしたい。
3	社会福祉法人	軽度の認知症のかたの活躍できる場の提供(認知症の進行予防)、認知症カフェの実施事業者の増加(認知症のかたの参加できる場の増加・認知症への理解促進)。(抜粋)
4	医療法人	家族会への支援、認知症カフェ。

• 在宅の認知症のかたへの対応 3件

No.	事業者	取り組み, 施策など
1	社会福祉法人	在宅の認知症のかたの早期発見と対応ができる仕組み。ひきこもりになる前, 早期から関わることで進行予防や個々のサービス利用ができる。
2	NPO 法人	施設介護サービスと異なり, 在宅サービスにおいては, 居宅中の1人である利用者に対する支援を行えるネットワークづくり。 認知症のモデル市になっているが, 認知症以外の高齢者に対する支援を等閑視しない。
3	社会福祉法人	法人独自の「地域ヘルプマン!! 活動」による在宅認知症のかた等への対応。例)徘徊しているかたに声をかけ, 対応したり, 自宅へ送迎したりしている。